

岩手県知事 達増 拓也 様

要望書



昭和 60 年 6 月 建立

国道 340 号 (旧道) 雄鹿戸隧道 宮古側坑口付近

九十九折る 山路を越えて 乗る馬の
ゆきなづみつつ 日は暮れにけり

西塔幸子 押角峠にて

国道 340 号宮古岩泉間整備促進期成同盟会

岩手県宮古市・岩泉町

令和 5 年 1 月

【写真説明】

歌は、「女啄木」と呼ばれた西塔幸子氏（1900-1936）が、昭和2年3月に岩泉の二升石尋常小学校へ転勤のため、押角峠の^{けんしゅん}険峻を馬で越えたときに詠まれた作品です。押角峠が、急カーブの折り返しが連続する険しい峠であったことや馬で越えてもとても時間のかかる交通の難所であったことがわかる歌です。

そこで、押角峠に西塔幸子の歌碑が昭和60年6月に建立されました。

九十九（つづら）折る 山路を越えて 乗る馬の
ゆきなづみつつ 日は暮れにけり

一般国道340号宮古岩泉間の早期整備について

一般国道340号は、岩手県陸前高田市を起点とし、青森県八戸市に至る総延長255kmに及ぶ幹線道路であり、地域の産業・経済・観光を支える重要な路線であります。

東日本大震災直後においては、沿岸地域と内陸部を結び、救助活動や物資輸送に大きな役割を果たし、令和元年東日本台風においては、一般国道45号がトンネル崩落等により通行止めとなった際、宮古市と岩泉町を結ぶ迂回路としての防災機能を発揮し、地域住民の社会活動において不可欠な路線であります。

しかし、現状では、狭隘で線形が悪く、落石や、冬期の路面凍結による通行規制が多く発生するため、円滑で安定した通行の確保が困難な状況であります。

一般国道340号の早期整備は、復興道路・復興支援道路と接続することにより、多分野にわたるストック効果をもたらし、救急医療、各種産業の発展、地域間交流の促進、観光振興等に寄与するものと期待しております。

よって、次の事項について特段の措置を講じるよう強く要望いたします。

記

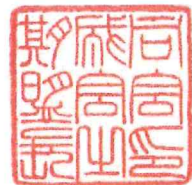
1. 一般国道340号宮古岩泉間全線の整備計画を早急に示すこと。
2. 浅内工区について、事業の進捗を図ること。また、岩泉側の未改良区間8kmについて、早期に事業化を図ること。
3. 和井内押角工区について、着実に整備を図ること。また、宮古側の未改良区間2kmについて、早期に事業化を図ること。

令和5年1月17日

国道340号宮古岩泉間整備促進期成同盟会

会長 宮古市長 山本正徳

副会長 岩泉町長 中居健一



国道340号宮古岩泉間整備促進期成同盟会 要望箇所図



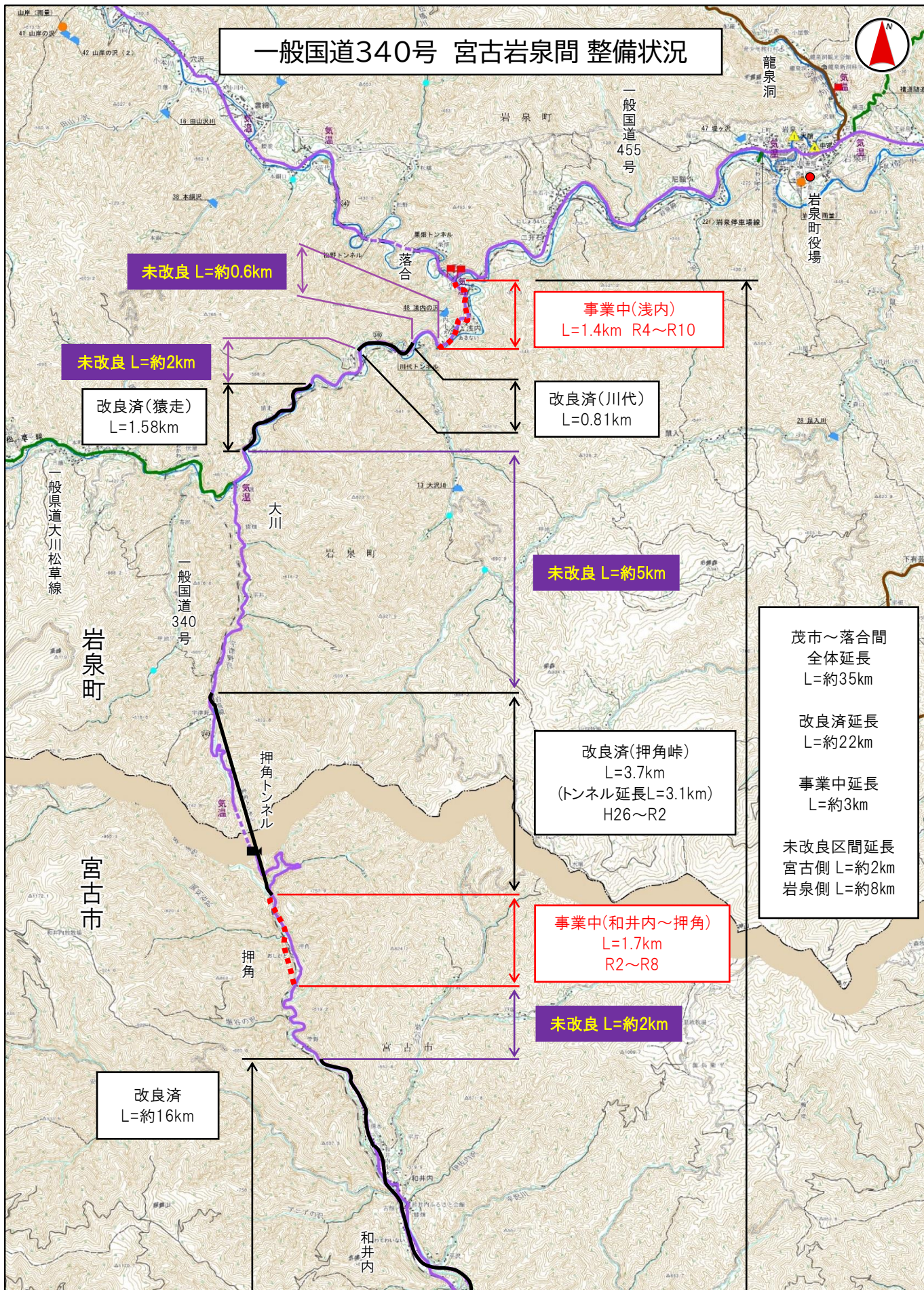
① 岩泉町落合～押角間の事業化区間の整備促進と未整備区間の早期事業化



② 宮古市和井内～押角間の事業化区間の整備促進と未整備区間の早期事業化



一般国道340号 宮古岩泉間 整備状況



未改良 L=約0.6km

未改良 L=約2km

改良済(猿走)
L=1.58km

事業中(浅内)
L=1.4km R4~R10

改良済(川代)
L=0.81km

未改良 L=約5km

茂市～落合間
全体延長
L=約35km

改良済延長
L=約22km

事業中延長
L=約3km

未改良区間延長
宮古側 L=約2km
岩泉側 L=約8km

改良済(押角峠)
L=3.7km
(トンネル延長L=3.1km)
H26~R2

事業中(和井内～押角)
L=1.7km
R2~R8

未改良 L=約2km

改良済
L=約16km